

岡山大学附属図書館所蔵

# 池田家文庫 藩政史料 (古文書記録)

## マイクロ版集成

全2486巻(リール)完結

第3期分 [財政 / 産業 / 社会 / 教育文化 / ]  
土木建築 / 交通通信 / 軍事 完成

第4期分 [藩侯 / 信長記 / その他 / 支藩・ ]  
家老家・岡山神社



## 藩経済の研究から信長記まで



大阪大学教授

脇田 修

幕藩体制といわれる近世の政治的体制のなかで、藩は、個々の領域をもち、政治・経済・文化などの各分野において独自の内容を形づくった。なかには散逸したり消失したりしたところもあるが、なおかなりの藩文書が残されていて、近世史研究にとっての重要な史料を提供してくれる。なかでも岡山藩・池田家は山陽道の雄藩であり、池田光政らの藩侯の事跡などでも知られた家であるが、古文書・記録類は岡山大学附属図書館に収められていて、その豊富な内容は、つとに知られている。すでに行政・所領・藩士などの関係史料はマイクロ化されて研究者の便宜を図っているが、さらに財政・産業・教育文化などを含む史料が続刊されるのは喜ばしいことである。

私は特定の藩を研究していないが、しかしそれなりの関心からいくつかの藩文書を調査させてもらった。農村・都市の支配政策や奉公人規制でも藩の法令を使つたが、とくに大坂を中心とした全国市場の形成の研究をおこなった頃は、近世前期の経済史料が少ないところから、藩の側から市場関係を見ようとしたことがあった。1950年代には写真機も悪く、やっと史料の接写ができるようになったころで、けなしの金をはたいて購入した機械をかついで各地の史料調査にでかけた。肥後・細川・防長・毛利、佐賀・鍋島などの諸家文書を訪ね、池田家文書も拝見する機会もあったが、大名財政をめぐる問題については、さまざまな角度から検討できるとおもいながら、本格的な分析はおこなっていない。そのうちに織田・豊臣政権の研究に関心が移ってしまった。

しかし織田政権の研究では、池田家文庫には別の意味で、お世話になることになった。いうまでもなく池田恒興は信長と関係が深く、これに関する史料も多いが、とくにここには太田牛一「信長記」が保存されているからである。ちょうど織田政権について研究をはじめたころ、一度、この原本に接したいと訪れたことがあり、岡山大学の石田善人先輩のお世話で拝見することができた。「信長記」には二つの系統があり、「原本信長記」と「信長公記」にわかれれるが、後者は町田家本や陽明文庫本による活字による復刻もされているが、前者については刊行されていない。池田家文庫本の「信長記」は前者の系統で、もっとも良質のものとされており、太田牛一自筆の冊も含まれていて、奥書に牛一が本人の出自や本書の由来などを記している。先年、その影印本が刊行され、私も購入して愛蔵しているが、何分部数も少なかったから、利用されることはないかのように思う。もともと戦国期の文学については、あまり検討されていないし、今後は研究が進むであろうが、「信長記」は日本の伝記文学としても優れたものの一つである。それが今回のマイクロに入っているのは喜ばしいし、新たな文学研究の発展に資するであろう。

## 藩の再生産構造解明のために



東洋大学教授

大野 瑞男

池田家文庫藩政史料のマイクロ版集成の事業が完了すると聞いて大変悦ばしい。最近マイクロ収録過程を拝見する機会があったが、16ミリフィルムの各コマに検索マークをつけて機械的検索やデジタル式のリーダープリンターでプリントができるだけでなく、朱書や折り目が判定できるよう工夫がこらされているのと、原型に復元できるよう注記を加えるなど、撮影にも細心の注意が払われており、今後のマイクロ撮影の方向を示す画期的な事業であることを知らされた。

初めて私が岡山大学附属図書館を訪れたのは、昭和30年代の末であったろうか。谷口澄夫教授の案内で整理が進行中の池田家文書の説明をうけた。6万点を超す膨大な大名文書を前にしてとりつく島もない思いをしたが、ある案件について谷口先生が関係史料を次々と取り出されるのを見て、原型のまま残されている大名文書は極めて構造的・機能的であることを痛感した。つまり藩が現実に機能していたときそのままに文書が存在しているのである。この文書についてジョン＝ホール氏が大名文書の機能分類を提示されたのも尤もであるとの感想をもったのである。その後大名文書を調査する多くの機会をもったが、その都度池田家文書が極めて保存状態がよく、質量ともに大名文書の白眉であることを思い出すのであった。

池田家による明治期の整理について、岡山大学に委譲されてから整理委員会の手で整理が進められ、仮目録が作成されていたことが、その後お訪ねしたとき文部省に整理予算を申請されるとのことであり、昭和45年『岡山大学所蔵池田家文庫総目録』が完成し、広く活用されるようになったのは周知のことである。

各藩の史料をみても藩財政に関する史料は意外に少ない。この点は残念ながら池田家文書も同様といえよう。江戸幕府の財政史料も財政改革の時期に収集整理した史料以外はあまり残されていない。財政史料のうち金銀銭や米の収支に関わる膨大な証文・手形・切手類や通帳のごときものは、勘定方の部局において廃棄されてしまう運命にあったのであろう。ところで池田家文書のなかで、藩財政史料が最も整備されているのは宍粟記録である。池田利隆の二男恒元が、慶安2年播磨宍粟郡に移され3万石で山崎に移したが、延宝6年恒行が死んだとき無嗣断絶となった。この家の史料が本藩に残され、慶安2年から延宝4年までの毎年の「物成納同払目録」など、その大部分が優れた財政史料なのである。

本藩の財政の基本的史料としては、安政5年から文久元年までと、元治元年から2年までの「御銀方月寄留」が月ごとの総收支を記し、国元・江戸・京都・大坂などの支出が判る史料もある。一見して鴻池家を主とする銀主に依存せざるをえない財政状況がよく解る。このほかにも大坂や江戸における借銀史料は大量にあり、これらの解説が待たれる。また、基本的史料である「留帳」には享保7年まで「賦斂」の項目があり、郡ごとの高・直高・物成・平免・定米などが記され、承応3年からの「備陽国史類編」にも「賦斂」の項目がある。享保8年以降の「御郡々御免目録」と対応する。藩の再生産構造を解明するには、単にこれら財政史料をみるだけでなく、「留帳」をはじめとする各種の史料を総合的に分析することによって解明できるであろう。

マイクロ化によって岡山藩政史料と他の幕藩史料との比較検討が容易となり、近世史研究が発展する契機が与えられたのである。我々研究者に課せられた課題は大きい。

# 「信長記」のおもしろさ



神戸女子大学教授  
岡山大学名誉教授

石田 善人

うかつな話だが、私は昭和45年4月にそれまでいた神戸大学から岡山大学に移るまで、岡山大学池田家文庫のなかに太田牛一自筆の「信長記」があることを知らなかった。岡山大学では長年かけて膨大な池田家文庫の整理を続けており、一部の専門家を除いて研究者にも公開していなかったのだから、知らないでふつうだった。図書館の池田家文庫を案内して下さった藤井駿・水野恭一郎両教授から、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康などの朱印状などとともに「信長記」も見せていただいた。「信長記」は、巻一のみが著者太田牛一の自筆、巻二以下は本文は別筆で奥書だけが牛一の自筆という説明をその時にうけた。それはそれまでに「信長記」をみた何人かの専門家の共通意見でもあって、「牛一の自筆の冊を含む」と表現されていたのである。

私は一見して、巻二以下の本文が牛一の筆に極めてよく似ているのが気にかかる、巻二以下の本文の筆者は、多分牛一の子供か誰か、ともかく近親者であろうという私見を申し述べた。私の頭の中には、伏見天皇と後伏見天皇の極めてよく似た筆跡のことがあった。古来、父子の筆跡が酷似する例が少くないからである。

数年後に、岡山の福武書店から池田家文庫中の優品を写真版で出版する話がまとまって、私がその解説を担当することになった。そこで初めて本格的に「信長記」と太田牛一のことを調べはじめた。先学の研究としては、田中久夫教授の「太田牛一『信長公記』成立考」(『帝国学士院記事』第五卷第二・三号)が各種伝本について詳細に記述されており、それを頼りに前田家尊経閣所蔵の「永禄十一年記」を見せていただいた。びっくりしたのは、まだ太田又助と名乗っていた頃の牛一の筆跡は、まぎれもなく池田家文庫「信長記」の巻二以下の本文の筆跡に一致することである。池田家文庫の「信長記」は、巻二以下是牛一の若い頃の自筆、巻一の全文と巻二以下の奥書は牛一の八十四歳の老筆という意外な事実がまず明らかになった。「永禄十一年記」は「信長記」巻一に相当するものだが、初め古志宮内少輔に宛てられたもので、書物好きの松雲公前田綱紀のころに五両で購入したという来歴も私には驚きであった。初め私は、牛一自筆の「信長記」が、信長のお気に入りの小姓前田犬千代の家と、信長の乳兄弟池田恒興の家にあることをごく自然のことのように感じていたのだが、前田家のものが綱紀時代の購入品だとすれば、池田家のものもいつ池田家に入ったかを考えねばならないことに気づいた。その手がかりを何とかして「信長記」十五冊のなかから見つけたいと、詳細に検討し始めた。十五冊のうちの巻十二は装丁も違っており、巻末の奥書も牛一の筆跡を真似て巻十三の奥書とほぼ同様の文言を記しているが明らかに異筆で近世も中期に近いころのものと考えられる。巻末の牛一自筆の奥書は巻一がもっとも長文で詳しく、巻を迫って簡略になるが、巻十三だけが突出して詳しく、しかも冒頭に「一巻」と書き初められており、末尾に「慶長十五年二月廿三日」日付がつけられている。十五冊ある「信長記」の巻十三だけが何故「一巻」なのか。実はこの巻には池田輝政が幸新と呼ばれた少年時代の初陣であった摂津花隈城攻めの記事がある。

輝政は自分の初陣の功が太田牛一の「信長記」に記されていることを誰かに聞いて、その記事のある巻十三だけを最初に入手したのである。牛一は以前に清書しておいた「信長記」の中から、巻十三を引き出して八十四歳の老筆で奥書を書き加えて提出した。慶長十五年の日付は輝政からの注文を受けた日付である。しかも輝政は該当の記事のあとに「忝も被成御感状代之面目也」の十三文字を牛一に追記させている。建勲神社本にはこの十三文字はない。桑田忠親氏が紹介した『原本信長記』にもこの十三文字があるから、『原本信長記』は池田家文庫本を書写したものであることも判明した。

輝政は改めて全巻を欲しいと要求し、巻一だけは汚損がはげしかったものか全部を書き改め、巻二以下は巻十三と同様に以前に清書してあったものに奥書だけを追記して輝政に献上したと考えられる。ただ巻十二だけは、築山殿と信康が殺されるくだりがあって、後難を恐れた牛一が献上しなかったらしい。建勲神社本にはこの記事が全文ないから、全文削除が牛一の最終判断であったことを示すが、池田家文庫の後補された巻十二には「爰三州岡崎の三郎殿不慮ニ狂乱候ニ付而遠州堀江之城ニ押籠番を居被置候」という記事がある。徳川の時代になって、徳川氏に関する記事をどのように書き改めたら無難なのかを苦慮した牛一の晩年の動搖をかい間みる思いがする。

朱筆を加えながら「信長記」を読んだ池田光政は、「信長記」を今みる姿に装丁した。「信長記第〇」の題箋の文字も光政が書いているが、巻十五では擦り消しと書き直しをした箇所がある。今回のマイクロ版はそれらの細部まで鮮明に撮影されているから、池田光政がどのように「信長記」を読んだかも考えながらみてほしいと思っている。

## 池田家文庫と近世公害史・流通史



和歌山大学名誉教授  
大阪産業大学特任教授

安藤 精一

池田家文庫にはじめて接したのは大学院特別研究生の時代で40数年前のことであった。その頃は自由に閲覧することはできず、『撮要録』等をすこし拝見ただけであったが、史料の宝庫でこれを十分に研究できたらすばらしいことだと痛感した。その池田家文庫が、岡山大学附属図書館の所蔵となり、さらに今回丸善株式会社によって、池田家文庫藩政史料マイクロ版集成の第三期刊行が実現することとなった。私のみならず世界中の日本近世史研究者の夢が実現することとなったのは御同慶のいたりである。

丸善から要望された近世公害史については拙著『近世公害史の研究』(平成4年2月。吉川弘文館)、流通史については拙著『近世在方商業の研究』(昭和33年11月)に述べたところであり、それぞれの著書の岡山関係の項で、直接あるいは間接に池田家文庫のお世話になったことはいうまでもない。しかしそれは池田家文庫のほんの一部分を利用したにすぎない。

公害といえば、普通は資本主義社会の矛盾としてとりあげられ、これまで公害の歴史の原点は明治時代の足尾銅山からの公害で、田中正造の反対運動が大きくとりあげられてきた。しかし、それでは近代以前の鉛害はなぜ公害ではないのかということが問題となる。拙著では公害は人為的に経済行為により生態系を破壊し、地域社会に被害をおよぼすものと考え、近世の公害は特殊な例外的なことではなく、地域の深刻な社会問題である場合もあったことを明らかにした。

池田文庫の史料を利用させていただいたのは作州の鉄山からの濁水が岡山県南部の農村や岡山城下町に公害をおよぼしたことのみである。しかし公害には開発公害と産業公害があり、備前藩の開発公害は今後、池田家文庫により解明しなければならない多くの研究課題がのこされていることは明らかである。

近世の商品流通について、拙著では農村の一部分をとりあげたにすぎず、今後、池田家文庫その他により、都市と農村を含めた商品流通史の研究が必要である。

## 池田家(岡山)文書の魅力



愛知大学教授

村長 利根朗

備前岡山、池田家は31.5万石の外様大名である。石高の規模では御三家を含めても10指のうちに入る。大型の外様大名は、伊達家や島津家をはじめとして、その多くがあまりいい所に住んでいないのだが、池田家は山陽道に瀬戸内海に面して授封され、姉妹藩ともいるべき鳥取池田家と合わせると、中国地方を東西に分断している。幕府の政策であろうか。池田家は立藩の初めから、徳川家と血縁的繋がりの濃いこともあって、外様という印象が淡い。

31万石余の大型大名が近世初期から明治維新まで、瀬戸内の気候・風土に恵まれ、大坂市場に近い所を占拠しているわけだから、それだけで経済史的な興味をそそられる。池田家は姫路を経て、岡山あるいは鳥取に移るが、姫路に移る前には三州吉田(豊橋)にいた。輝政の代で52万石を領していた。池田家が去ったあの吉田は、数万石の譜代大名がのべ11家も去来するばかりで、そのためか、藩政史料に乏しくて仕事がやりにくい。これに対し、池田家は、近世大名の中でも届指の豊かな史料を保存していた。

中央市場に近い大型藩ということもあって、岡山藩には関心が持てるし、しかも、藩史の研究も進んでいるので、それを読む機会も多かった。時代の進展に即応して変革されてゆく藩の姿が読み取れたが、そこには、羨望するに足る史料が数多く盛り込まれていた。岡山藩の藩政に関する文書・史料は前々から上梓されていたものも多く、近くは『岡山県史』の史料としても刊行されているが、それとて重要な一部にすぎなかろう。今般池田家文書のうち27,360点が『池田家文庫

藩政史料マイクロ版集成』第一・二期分として出版された。約60,000点の中の27,360点ということのようだが、続く、第三・四期分も完成しており、池田家文書の重要な大部分は自由に利用できるようになるはずである。

分野別に分類された出版計画書を見ると、実に、多岐広汎にバランスよく文書が網羅されていて感嘆する。こういう第一級の史料を自由に駆使できる今後の研究者は幸せである。しかし、それにしても第一期だけでも1,464万円ということでは、個人で買える代物ではない。とすれば、大きな図書館や仮にも史学科を置く大学等には買い調べる責任がありそうだ。史料を整理し刊行することの苦労は並たいていのことではない。いい研究を生みだすことが、使わせてもらう側の務めであろう。



エール大学教授

## コンラッド・タットマン

In elemental ways eighteenth-century (mid-Tokugawa) Japan was a microcosm of tomorrow's world. It was a society in which the human population was consuming resources as fast as the biosystem could produce them. Some of the most interesting questions in the study of Tokugawa Japan relate to this situation. For example, how were resources distributed? How did scarcity affect human affairs? How were disputes over resources settled? How did human choices affect the biosystem? These same questions are rapidly emerging as major issues in modern life, and they will become even more central as the decades advance. The documents of the Ikeda Bunko will provide scholars with an excellent source of information on how Tokugawa society dealt with those issues, thereby alerting us to some of the problems and possibilities of our own day.

In its totality this microfilm collection will illuminate a wide range of other issues as well because it is the product of a major, long-term program of record-keeping. The House of Ikeda, the hereditary lords of the great daimyo domain of Bizen, was headquartered in the castle town of Okayama on the Inland Sea. For about 240 years from 1632 until 1871 officials of the Ikeda domain government maintained administrative records that dealt with a vast array of affairs. Their coverage was broad because the Confucian principles of governance that guided Ikeda rulers regarded all aspects of human affairs as the proper domain of government. Documents in this collection deal with legislation, official appointments and promotion, law enforcement, taxation, the promotion and management of commerce, land control, censuses, public ceremonies, public morals, public relief, resource management, and environmental protection. Consequently scholars interest in a broad array of historical subjects will find in the Ikeda Bunko research materials of immense value.

Pioneering work by John W. Hall and others in the 1950s alerted the international scholarly community to the richness of Okayama's history, but the difficulty of utilizing old and fragile documents has discouraged full study of that history. Now, by microfilming this great collection of 60,000 items, the Maruzen Company is giving the scholarly world ready access to this history

for the first time.

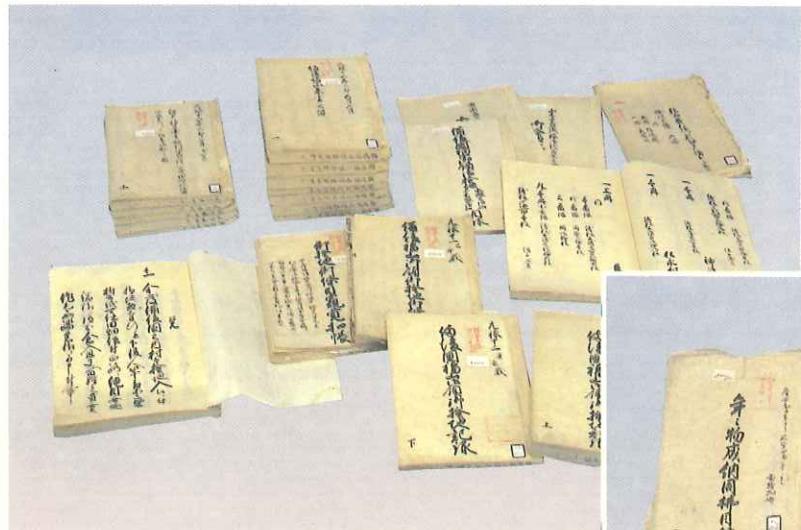
Access to these documents will facilitate a broad array of research. Scholars will be able to study aspect of governance that characterized not only Okayama but all daimyo governments and even the Tokugawa shogunate itself. Indeed, scholars will find in these documents historical antecedents of leadership and decision-making practices that still characterize Japanese government. Church state relations, which are an issue in all societies, can be examined as they operated in Okayama and foreshadowed modern Japan. Urban administration, disaster relief, strategies of resource allocation, handling of public works, and environmental management, which were important issues throughout Tokugawa Japan as well as in the modern world, can all be examined with the aid of this documentary collection.

It is difficult to imagine a publishing endeavour that could provide richer evidence of the enduring continuities that link the human present and future to the human past or that show how fundamentally modern Japan has been shaped by its historical heritage. This Maruzen microfilm project is rightly receiving international acclaim as an accomplishment of the first rank.

# 近世日本の扉を開くトータルな藩政史料

## ● 「財政」の部

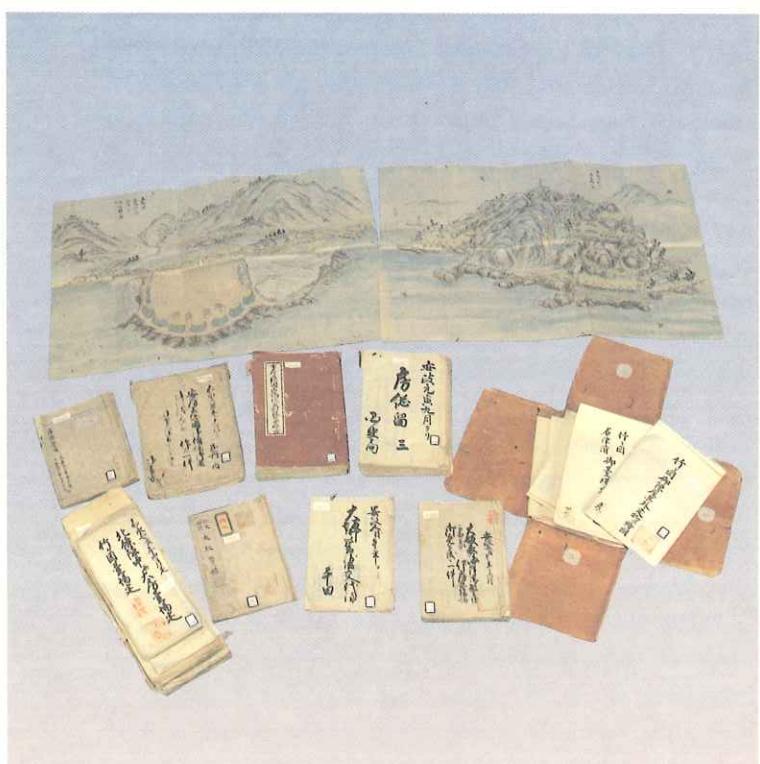
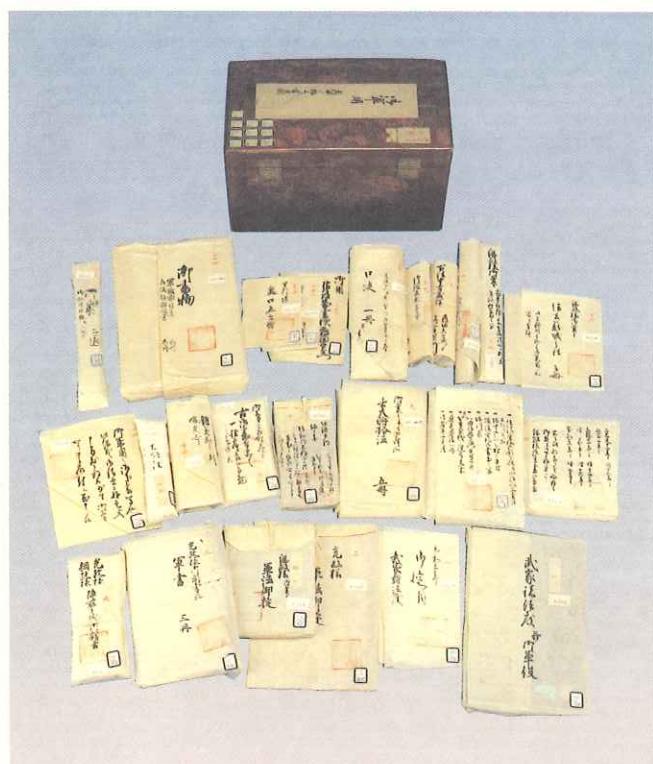
〈第3期〉



備後国福山領検地関係記録

宍粟関係史料

## ● 「軍事」の部



軍役、軍法史料

幕末海防関係史料

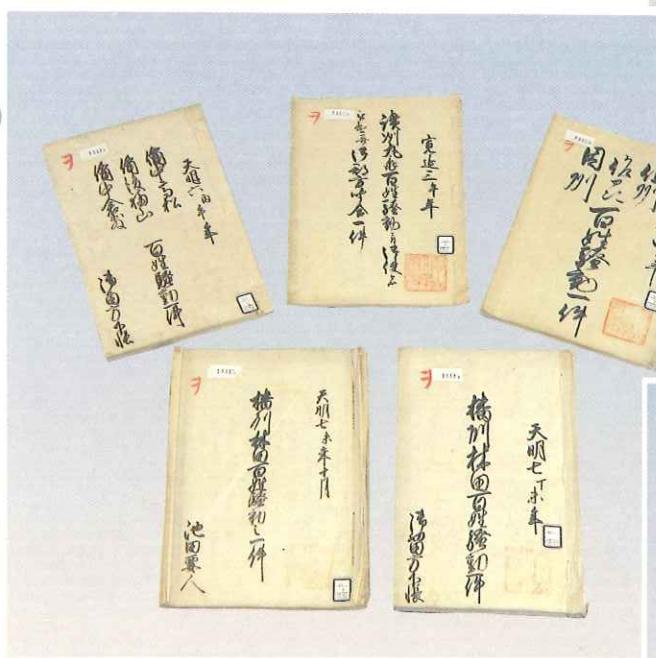
## 「産業」の部



備前国備中國之内領内産物帳、同絵図帳

領内人口関係史料

## 「社会」の部

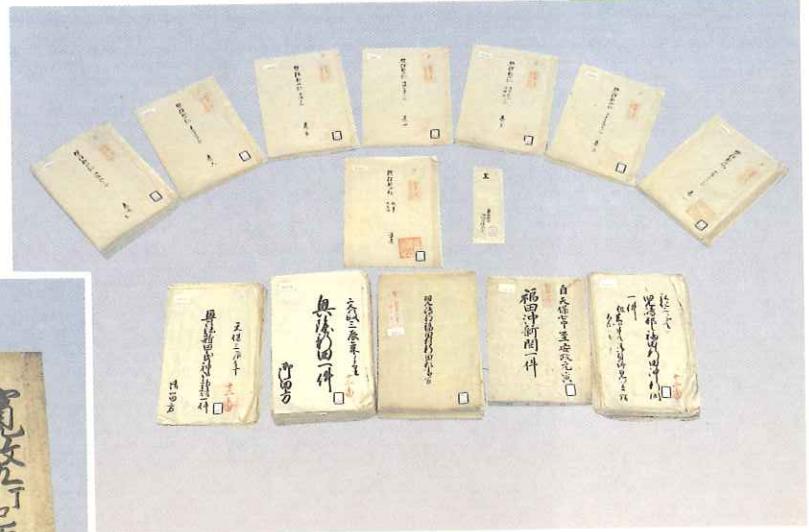
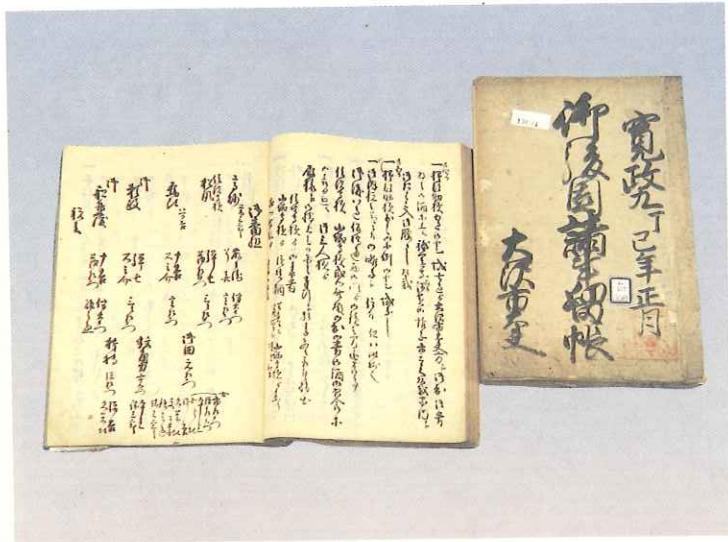


近隣諸領百姓騷動關係史料

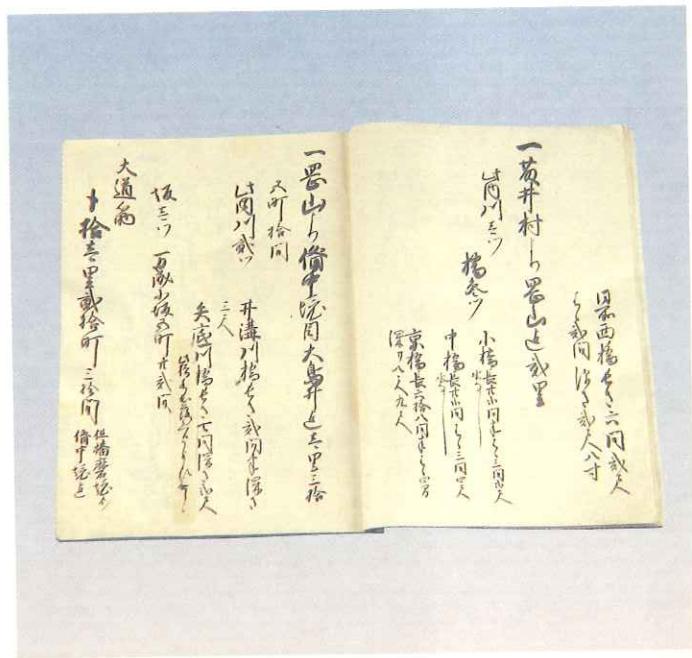


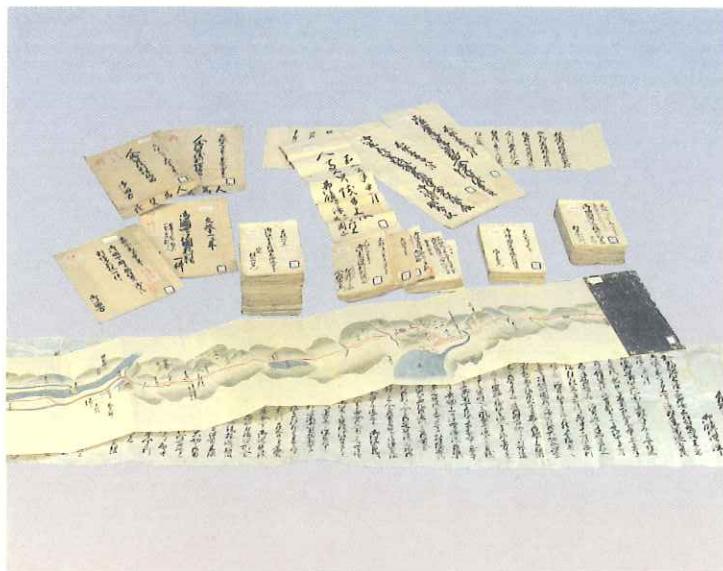
孝行・奇才・善人記類

## ● 「土木建築」の部



## ● 「交通通信」の部



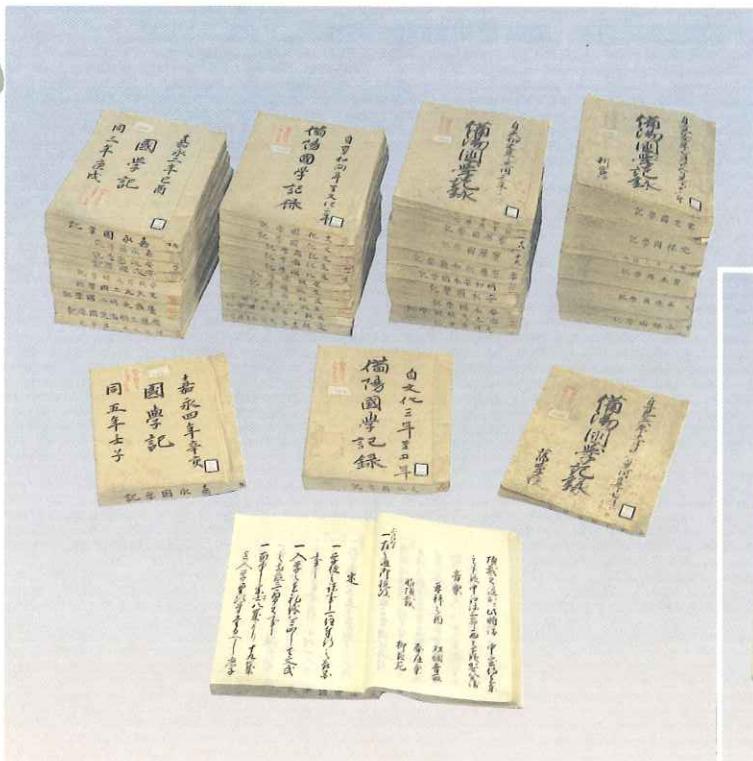


街道交通関係史料

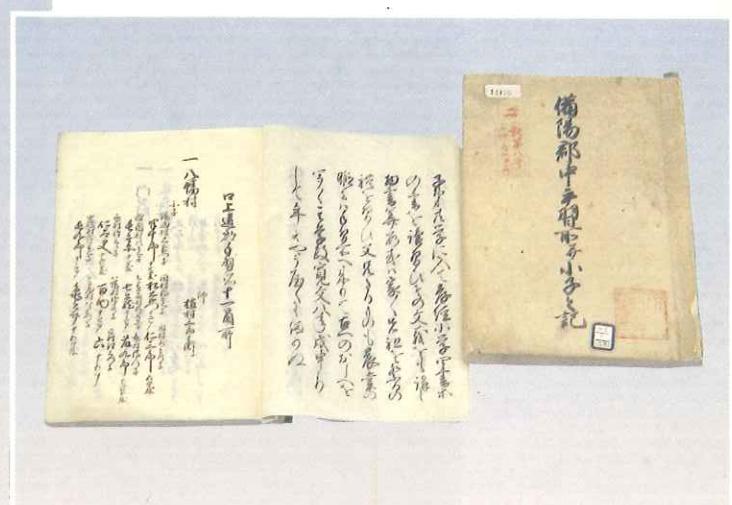


船手留帳類

## ● 「教育文化」の部

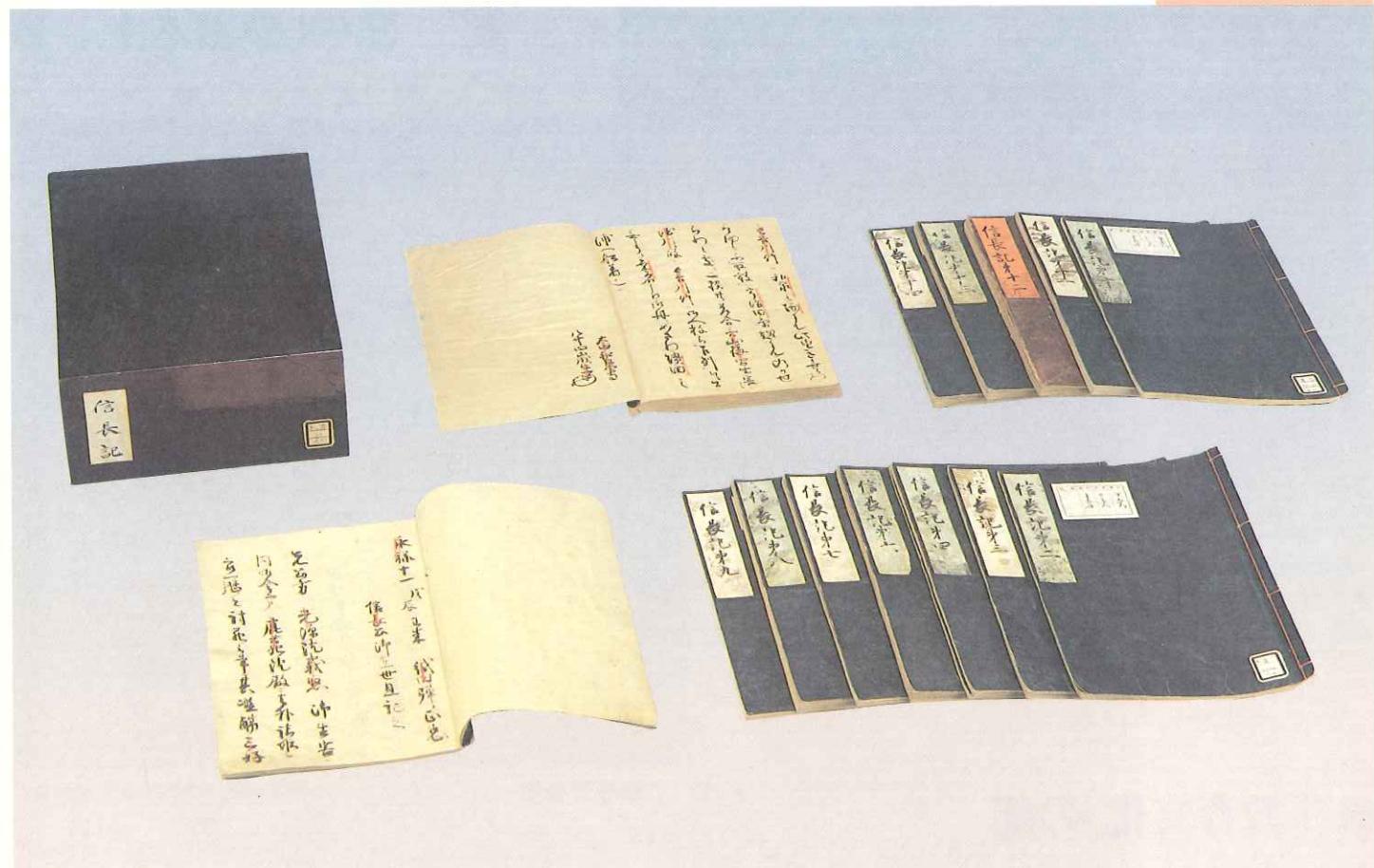


備陽国学記録



備陽郡中手習所并小子之記（寛文 11 年）

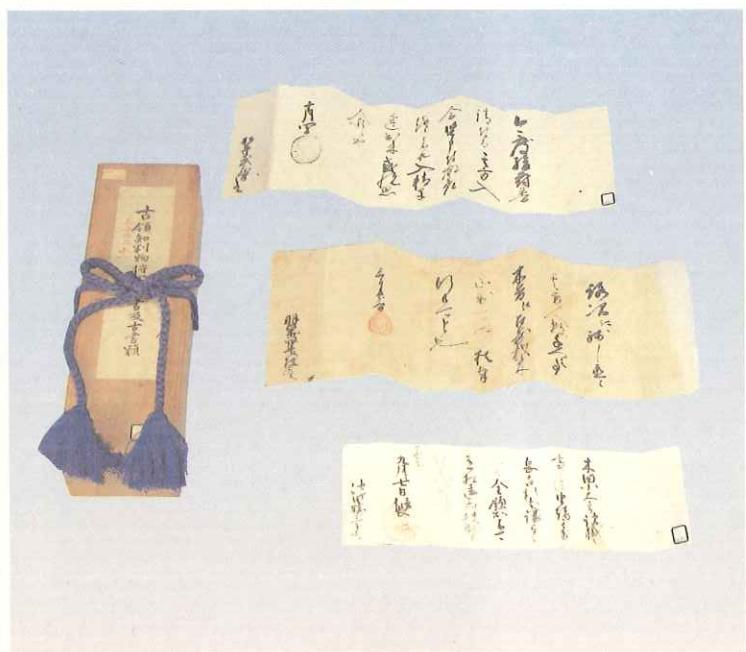
● 「藩侯および信長記」の部



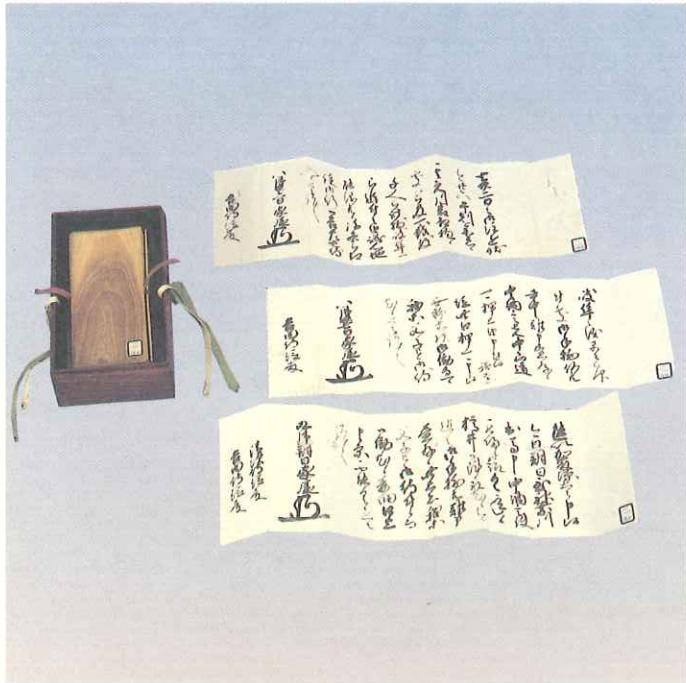
国指定重要文化財 信長記 自筆本（第十二補配本）15冊 慶長15年太田牛一奥書



池田家重書類



信長朱印状(天正元年)・秀吉朱印状(天正年間)・家康黒印状(慶長12年)



徳川家康書状 慶長 5年



池田恒興(信輝)と輝政の判物 (天正 9年、慶長 12年)



増上寺御靈屋御普請手伝関係記録



関東筋川々御普請手伝関係記録



朝鮮通信使接待関係記録

近隣諸城受取関係記録（赤穂、福山、津山、松山）



東政秘録（江戸藩邸関係記録）



藩侯日記類

## ● 「支藩・家老家・岡山神社」の部



支藩(鴨方・生坂)、家老家(伊木・森寺)、岡山神社文書



領内地誌、史書、家史類

# 池田家文庫 藩政史料マイクロ版集成

完結記念セット特価 全2486巻(リール)購入者のみ ￥62,150,000

\*全巻(全リール)入手可能です。/ご注文をお受け次第、4週間以内に納入致します。

## 第3期分 <分野別ユニット>

### ●「財政」分野

3,302点 116リール

額価￥3,480,000

分類	点数	リール数
収入	578	25
支出	659	46
借銀	327	7
銀札	6	2
献納	556	9
専壳	30	2
貢租	176	7
雜	970	18

### ●「産業」分野

683点 22リール

額価￥660,000

分類	点数	リール数
産物	22	2
政策	42	2
商業	45	2
金融	279	11
雜	295	5

### ●「社会」分野

758点 24リール

額価￥720,000

分類	点数	リール数
戸口	66	4
善事書上	139	8
賞罰	115	2
災害	143	5
雜	295	5

### ●「教育文化」分野

3,578点 91リール

額価￥2,730,000

分類	点数	リール数
国学(藩校)	148	21
郷学(閑谷学校)	336	7
手習所	4	1
私塾	16	2
文化化	1,048	19
雜	2,026	41

### ●「土木建築」分野

735点 37リール

額価￥1,110,000

分類	点数	リール数
新田	120	4
排水水	52	2
諸施設造営	392	27
雜	171	4

### ●「交通通信」分野

603点 27リール

額価￥810,000

分類	点数	リール数
陸上交通	198	9
海上交通	367	12
河川交通	11	2
通信	3	2
雜	24	2

### ●「軍事」分野

4,358点 82リール

額価￥2,460,000

分類	点数	リール数
武備	387	6
軍法	1,102	26
軍役	746	12
武器具	169	7
戦陣	171	5
海防	671	13
軍制改革	928	10
雜	184	3

### ●マイクロ仕様

\*16ミリマイクロフィルム

\*ダイレクト検索機能付

\*シルバーハライド

\*ポジ極性

\*オープンリール/カートリッジ

### ●ご購入者への特典

\*「総記」「国事維新」「藩士」分野の購入者には、池田家文庫マイクロ版集成の出版記念として「改定増補 池田家文庫マイクロ版史料目録」が無料にて提供されます。

\*上記以外の分野は、現在利用されています「池田家文庫総目録(昭和45年刊)」にマイクロアドレスを付与した「池田家文庫マイクロ版史料目録」が付されます。

\*完結記念セット特価は、全分野/全巻ご購入者を対象に適用されます。(特価期限は1995年3月末日までのご注文に限り有効) 但し、ご注文を頂いてから最長5年以内での全分野/全巻ご納入を条件とさせて頂きます。

\*マイクロフィルムの設置・保管に関するご相談に応じます。

注※ご購入の際には消費税が付加されます。

## 第4期分 <分野別ユニット>

### ●「藩侯」分野 <第1部：信長記他>

9,976点 263リール 頒価¥ 7,890,000

分類	点数	リール数
信長記	15	1
系譜	628	17
年譜	121	3
家督	642	22
官位	253	7
吉凶仏事	6,995	182
規式	1,322	31

### ●「藩侯」分野 <第2部：勤役・巡見他>

7,123点 265リール 頒価¥ 7,950,000

分類	点数	リール数
勤役・巡見	1,915	50
交際	1,365	36
城郭	28	1
屋敷・道具	1,165	27
雑	2,650	151

### ●「藩侯」分野 <第3部：歴代書状・日記類>

1,948点 256リール 頒価¥ 7,680,000

分類	点数	リール数
歴代書状	397	8
日記類	1,551	248

### ●「その他」分野

803点 43リール 頒価¥ 1,290,000

分類	点数	リール数
古文書雑	247	9
和書	372	30
補遺	184	4

### ●「支藩・家老家・岡山神社」分野

4,244点 122リール 頒価¥ 3,660,000

分類	点数	リール数
鴨方藩(支藩)	2,669	53
生坂藩(支藩)	15	7
伊木家(家老)	992	31
森寺家(家老)	451	14
岡山神社文書	117	17

## 第1期・第2期分

分野別ユニット	分類	価額
総記 (248リール)	1. 留帳類 2. 地誌 3. 御達書 4. 市政提要 5. 撲要録 6. 国史提要 7. 修史草案・史料草案 8. 池田家履歴略記 9. 御家史草稿 10. 森寺温故	¥7,440,000
国事維新 (126リール)	1. 国事周旋 2. 藩論 3. 建白 4. 出兵 5. 藩政改革 6. 雜	¥3,780,000
法制 (64リール)	1. 幕法 2. 藩法 3. 評定記録 4. 出入文書 5. 雜	¥1,920,000
行政 (50リール)	1. 職制 2. 諸役所 3. 誓紙 4. 建白 5. 雜	¥1,500,000
領地 (27リール)	1. 判物 2. 領地目録 3. 石高 4. 新田改出高 5. 分知 6. 雜	¥810,000
藩士 <第1部：奉公書> (385リール)	奉公書	¥11,550,000
藩士 <第2部：分限帳 知行他> (171リール)	1. 分限帳 2. 知行 3. 除帳 4. 格式 5. 相続 6. 賞罰 7. 規式 8. 屋敷 9. 雜	¥5,130,000
宗教 (67リール)	1. 寺社 2. 宗門改 3. 寺社政策 4. 黒住教 5. 雜	¥2,010,000

\* 上記分野の商品カタログが出来ておりますので、弊社書籍雑誌事業部 ニューメディア部または最寄りの支店までお申しつけ下さい。

**丸善株式会社 [学術情報ソリューション事業部 企画開発センター]**  
〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18 国際浜松町ビル 7F  
TEL 03-6367-6078 FAX 03-6367-6184 <http://www.maruzen.co.jp/>  
営業部・支店・営業所＝横浜・八王子・大宮・筑波／札幌・盛岡・仙台・名古屋・岐阜・  
金沢・京都・大阪・神戸・岡山・松山・広島・福岡・長崎・熊本・沖縄／ニュージャージー



# 池田家文庫 藩政史料マイクロ版集成価格表

●編集：岡山大学 池田家文庫等刊行会

●出版：丸善株式会社

●製作：富士写真フィルム株式会社

●仕様：全17分野／2,486リール、65,476点、マイクロ版史料目録（改訂増補／簡易）

本マイクロ版集成は江戸時代の古文書・記録類65,476点を収載しています。また、本マイクロ版集成の検索ツールとしてマイクロ版史料目録を作成しました。

●マイクロ仕様

\* 16ミリマイクロフィルム \* シルバーハライド \* オープンリール／カートリッジ \* ダイレクト検索機能付 \* ポジ極性

●ご購入者への特典

\* 「総記」「国事維新」「藩士」「法制」分野の購入者には、池田家文庫マイクロ版集成の出版記念として「改訂増補 池田家文庫マイクロ版史料目録」が無料にて提供されます。

\* 上記以外の分野は、現在利用されています「池田家文庫総目録（昭和45年刊）」にマイクロアドレスを付与した「池田家文庫マイクロ版史料目録（簡易目録）」が付されます。

\* 完結記念セット価格は、全分野／全巻ご購入者を対象に適用されます。（特価期限は1996年3月末日までのご注文に限り有効）但し、ご注文を頂いてから最長5年以内での全分野／全巻ご納入を条件とさせて頂きます。

\* マイクロフィルムの設置・保管に関するご相談に応じます。

**完結記念セット特価 全2486巻（リール）購入者のみ ¥62,150,000**

\*全巻（全リール）入手可能です。／ご注文をお受け次第、4週間以内に納入致します。（注 ご購入の際には消費税が付加されます）

**分野別ユニット（全17分野）**

（ご購入の際には消費税が付加されます）

○「総記」分野

1,991点 248リール

価格¥7,440,000

○「国事維新」分野

8,363点 126リール

価格¥3,780,000

分類 (コード)	点数	リール数
留帳類 (TAA, YAA)	901	178
地誌 (TAB)	57	3
御達書 (TAC, YAC)	155	20
市政提要 (TAD)	24	3
撮要録 (TAE)	39	6
国史提要 (TAF, YAF)	16	2
修史草案・史料草案 (TAG)	119	6
池田家履歴略記 (TAH)	111	9
御家史草稿 (TAI)	421	11
森寺温故 (TAJ)	148	10

分類 (コード)	点数	リール数
国事周旋 (TSA, YSA)	2022	18
藩論 (YSB)	17	1
建白 (TSC, YSC)	606	6
出兵 (TSD, YSD)	1543	25
藩政改革 (TSE, YSE)	944	32
雜 (TSF, YSF)	3231	44



「法制」分野

2,374点 64リール

額価￥1,920,000

分類 (コード)	点数	リール数
幕 法 (TEA, YEA)	257	4
藩 法 (TEB, YEB)	336	14
評定記録 (TEC, YEC)	39	7
訴訟文書 (TED, YED)	1475	30
その他 (TEE, YEE)	267	9

「行政」分野 ✓

3,737点 50リール

額価￥1,500,000

分類 (コード)	点数	リール数
職 制 (TFA, YFA)	351	8
諸 役 所 (TFB, YFB)	552	13
誓 詞 (YFC)	1455	10
建 白 (YFD)	38	1
雜 (TFE, YFE)	1341	18

「領地」分野 ✓

834点 27リール

額価￥810,000

分類 (コード)	点数	リール数
判 物 (TBA, YBA)	182	4
領 知 目 錄 (TBB, YBB)	59	2
石 高 (TBC, YBC)	240	14
新田 改出高 (TBD, YBD)	25	2
分 知 (TBE, YBE)	25	2
雜 (TBF, YBF)	303	3

「藩士」分野 <第1部：奉公書>

5,666点 385リール

額価￥11,550,000

分類 (コード)	点数	リール数
奉 公 書 (TDC, YDC)	5666	385



「藩士」分野 <第2部：分限帳、知行他>

額価￥5,130,000

2,976点 171リール

分類 (コード)	点数	リール数
分限帳 (TDA, YDA)	821	72
知 行 (TDB, YDB)	453	12
除 帳 (TDD, YDD)	292	38
格 式 (TDE, YDE)	137	6
相 繼 (TDF, YDF)	224	6
賞 罰 (TDG, YDG)	169	7
規 式 (TDH, YDH)	380	9
屋 敷 (TDI, YDI)	63	4
雜 (TDJ, YDJ)	437	17

「宗教」分野 ✓

1,424点 67リール

額価￥2,010,000

分類 (コード)	点数	リール数
寺 社 (TPA, YPA)	850	49
宗 門 改 (TPB, YPB)	416	11
寺 社 政 策 (TPC, YPC)	56	2
黒 住 教 (TPD, YPD)	4	2
雜 (TPE, YPE)	98	3

「財政」分野 ✓

3,302点 116リール

額価￥3,480,000

分類 (コード)	点数	リール数
収 入 (TGA, YGA)	578	25
支 出 (TGB, YGB)	659	46
借 銀 (TGC, YGC)	327	7
銀 札 (TGD, YGD)	6	2
獻 納 (TGE, YGE)	556	9
專 売 (TGF, YGF)	30	2
貢 租 (TGG, YGG)	176	7
雜 (TGH, YGH)	970	18

**「産業」分野 ✓**

683点 22リール

頒価￥660,000

分類 (コード)	点数	リール数
產物 (TKA, YKA)	22	2
政策 (TKB, YKB)	42	2
商業 (TKC, YKC)	45	2
金融 (TKD, YKD)	279	11
雜 (TKE, YKE)	295	5

**「交通通信」分野 ✓**

603点 27リール

頒価￥810,000

分類 (コード)	点数	リール数
陸上交通 (TNA, YNA)	198	9
海上交通 (TNB, YNB)	367	12
河川交通 (TNC, YNC)	11	2
通信 (TND, YND)	3	2
雜 (TNE, YNE)	24	2

**「社会」分野 ✓**

758点 24リール

頒価￥720,000

分類 (コード)	点数	リール数
戸口 (TLA, YLA)	66	4
善事書上 (TLB, YLB)	139	8
賞罰 (TLC, YLC)	115	2
災害 (TLD, YLD)	143	5
雜 (TLE, YLE)	295	5

**「軍事」分野 ✓**

4,358点 82リール

頒価￥2,460,000

分類 (コード)	点数	リール数
武備 (THA, YHA)	387	6
軍法 (THB, YHB)	1,102	26
軍役 (THC, YHC)	746	12
武器具 (THD, YHD)	169	7
戦陣 (THE, YHE)	171	5
海防 (THF, YHF)	671	13
軍制改革 (THG, YHG)	928	10
雜 (THH, YHH)	184	3

**「教育文化」分野 ✓**

3,578点 91リール

頒価￥2,730,000

分類 (コード)	点数	リール数
国学 (藩校) (TRA, YRA)	148	21
郷学 (閑谷学校) (TRB, YRB)	336	7
手習所 (TRC)	4	1
私塾 (TRD, YRD)	16	2
文化化 (TRE, YRE)	1,048	19
雜 (TRF, YRF)	2,026	41

**✓「藩侯」分野〈第1部：信長記他〉 頒価￥7,890,000**

9,976点 263リール

分類 (コード)	点数	リール数
信長記 (TCZ)	15	1
系譜 (TCA, YCA)	628	17
年譜 (TCB, YCB)	121	3
家督 (TCC, YCC)	642	22
官位 (TCD, YCD)	253	7
吉凶仏事 (TCE, YCE)	6,995	182
規式 (TCF, YCF)	1,322	31

**「土木建築」✓**

735点 37リール

頒価￥1,110,000

分類 (コード)	点数	リール数
新田 (TMA, YMA)	120	4
用排水 (TMB, YMB)	52	2
諸施設造営 (TMC, YMC)	392	27
雜 (TMD, YMD)	171	4

**✓「藩侯」分野〈第2部：勤役・巡見他〉 頒価￥7,950,000**

7,123点 265リール

分類 (コード)	点数	リール数
勤役・巡見 (TCG, YCG)	1,915	50
交際 (TCH, YCH)	1,365	36
城郭 (TCK)	28	1
屋敷・道具 (TCL, YCL)	1,165	27
雜 (TCM, YCM)	2,650	151

「藩侯」分野〈第3部：歴代書状・日記類〉 頒価￥7,680,000

1,948点 256リール

分類 (コード)	点数	リール数
歴代書状 (TCI, YCI)	397	8
日記類 (TCJ, YCJ)	1,551	248

「その他」分野✓

頒価￥1,290,000

803点 43リール

分類 (コード)	点数	リール数
古文書雑 (YWY)	247	9
和書 (TWZ)	372	30
補遺	184	4

✓「支藩・家老・岡山神社」分野 頒価￥3,660,000

4,244点 122リール

分類	点数	リール数
鴨方藩 (支藩)	2,669	53
生坂藩 (支藩)	15	7
伊木家 (家老)	992	31
森寺家 (家老)	451	14
岡山神社文書	117	17

改訂増補

## 池田家文庫 藩政史料マイクロ版史料目録

全7分冊 頒価￥88,200 (税込み)

■編集：岡山大学附属図書館 ■発行：丸善株式会社 ■制作：富士写真フィルム株式会社

「総記」 1992.316ページ. (ISBN 4-8395-0100-9) 頒価￥ 9,600

「国事維新」 1992.452ページ. (ISBN 4-8395-0101-7) 頒価￥ 11,000

「藩士1」：分限帳、知行、規式、屋敷他関係史料  
1993.320ページ. (ISBN 4-8395-0105-X) 頒価￥ 9,600

「藩士2」：岡山藩士家別奉公書  
1993.599ページ. (ISBN 4-8395-0102-5) 頒価￥ 17,000

「藩士3」：編纂奉公書集他  
1993.427ページ. (ISBN 4-8395-0103-3) 頒価￥ 11,000

「藩士4」：除帳と陪臣奉公書他 索引・付録付  
1993.447ページ. (ISBN 4-8395-0104-1) 頒価￥ 11,000

「法制」 1993.550ページ. (ISBN 4-8395-0106-8) 頒価￥ 19,000

※上記価格は税込みです。

林原美術館所蔵

## 池田光政自筆日記マイクロ版

(岡山大学 池田家文庫には所蔵されていない貴重な光政自筆日記をマイクロ化したもの)

■21冊 2リール 頒価￥60,000 (税抜き)



丸善株式会社 [学術情報ソリューション事業部 企画開発センター]

〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18 国際浜松町ビル 7F

TEL 03-6367-6078 FAX 03-6367-6184 <http://www.maruzen.co.jp/>

営業部・支店・営業所＝横浜・八王子・大宮・筑波・札幌・盛岡・仙台・名古屋・岐阜・

金沢・京都・大阪・神戸・岡山・松山・広島・福岡・長崎・熊本・沖縄・ニュージャージー